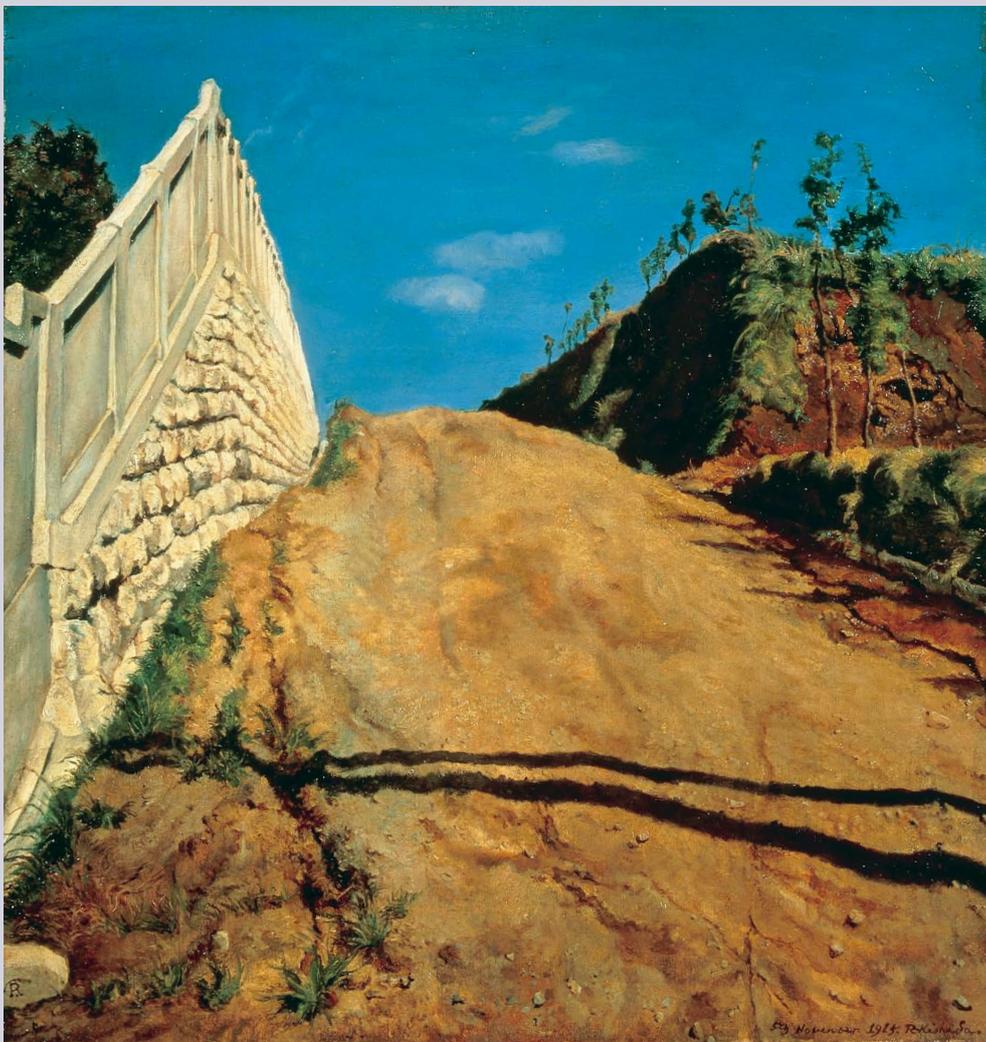


独立行政法人国立美術館
東京国立近代美術館

Independent Administrative Institution National Museum of Art
The National Museum of Modern Art, Tokyo

概要



平成 29 年度

ご挨拶

世界最古の美術館は、15世紀ローマにできたカピトリノ美術館と言われています。時の教皇が保管していた古代ローマのブロンズ像などを一般市民にも観られるように、宮殿や中庭を開放したのが始まりだそうです。

当初の美術館は、誰もが認める美しい芸術品を誰にでも観られるように建物を作り、展示を行う文化施設として発展してきました。国内外の有名な美術館には世界中から人が集まります。日頃美術に関心のある人もない人も旅行の際には必ず訪れる観光スポットとして、美術館は注目されるようになりました。

しかし、20世紀以降の美術館には新たな存在意義が加わるようになりました。人間社会が直面する様々な課題に対して美術の力で問題提起をしたり、解決に向けた提案をしたりするなど、人々に対してメッセージを発する文化施設としての性格も加わるようになりました。

そのような役割が求められる美術館にとって、近現代の美術作品は極めて重要な収蔵・展示対象となっています。なぜなら、多くの作家は私たちと同じ時代を生き、同じ空気を吸い、同じ経験を持っているからです。古典的な名作が時代を超えて私たちに様々な価値を訴えかけてくるのに対し、近現代の作品はより私たちに身近な存在として私たちとともに生きているとも言えるでしょう。

今や美術館は、衣食足りて心に余裕があるときにだけ行くところではありません。人生に行き詰まって、つらいとき、苦しいとき、悲しいときこそ美術館を訪れてほしいと思います。なぜなら、現代の美術館に並ぶ作品の中には、あなたと同じくらい、あるいはそれ以上のつらさ、苦しき、悲しさが表現されているからです。

東京国立近代美術館は、昭和27年（1952年）に日本で最初の国立美術館として開館し、主に我が国の近現代の美術・工芸・映画作品を収集・展示するとともに、展示作品を題材としたガイドツアー、講演会、シンポジウムなど様々な活動を行ってきました。

特にボランティア・ガイドによるツアーは、作品を紹介する一方向のものでなく、作品を観て感じたり考えたりしたことを参加者同士で意見交換する対話型のスタイルを取り入れています。

当館も21世紀の美術館に求められる役割の一端を担いたいと考えています。20世紀以降に生まれた日本美術の宝の魅力が実感でき、美術を通じて自由な対話が発展し、多様な価値観を分かち合うことで、国内外の人々が一緒にハッピーな時間を過ごせるような美術館を目指して参ります。

引き続きみなさまのご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

独立行政法人国立美術館
東京国立近代美術館
館長 かみよ 神代 浩



目次

東京国立近代美術館のあらまし	1
本館・工芸館の主な活動	3
フィルムセンターの主な活動	7
略年表	10
その他	14

表紙

岸田劉生《道路と土手と堀(切道之写生)》1915年(油彩)
(1971年6月22日重要文化財指定)

東京国立近代美術館のあらまし

当館の活動を紹介する前に、ここで本館、工芸館、フィルムセンターの設立からこれまでの経緯について説明します。

本館

日本で最初の国立美術館

古くは明治初年から、同時代の美術を恒常的に展示する美術館を要望する動きが起こり、幾度か議会での請願の採択も見ましたが、ついに当館の開設まで近代の美術を常時陳列する国立の施設は実現されませんでした。昭和27年（1952年）、中央区京橋の旧日活本社ビルの土地建物を購入し、同年6月、文部省所轄の機関として国立近代美術館が設置され、建築家前川國男の設計による改装工事を施して、同年12月に開館しました。その後も二度にわたって隣接地を購入、拡張改修を行いました。

収蔵品の増加と企画展の拡充等により、コレクションの展示が次第に制約されるようになったことから、美術館の移転が検討されていたところ、石橋正二郎評議員より美術館建物の寄付申し入れがあり、その好意によって、北の丸公園の一面に新館の造営が決まり、建築家谷口吉郎の設計による新館が、昭和44年（1969年）6月に開館しました。

移転後30年を経過し、設備の面で社会の要請に応える上での不備も生じてきたことから、平成11年（1999年）7月から約2年半をかけ、坂倉建築研究所の設計による大規模な増改築工事を施しました。展示場の拡張、閲覧サービスのできる図書資料室の整備、レストランやミュージアムショップの新設、休憩スペースの増設など、鑑賞環境の整備と充実ならびに耐震性の強化を図った工事は、平成13年（2001年）8月竣工し、平成14年（2002年）1月、記念展「未完の世紀—20世紀美術がのこすもの」をもって、新たな活動を再開しました。

また平成24年（2012年）には開館60周年を迎え、所蔵作品展の大規模なリニューアルを行いました。



京橋時代の美術館



本館 撮影：上野則宏

工芸館

重要文化財指定の明治洋風建築

工芸館の建物は、明治43年（1910年）に建てられた、陸軍技師^{やすし}田村鎮の設計による近衛師団司令部庁舎を改修して、美術館仕様の建物としたものです。

戦後、荒廃したままに放置されていた旧司令部庁舎は、昭和41年（1966年）の皇居周辺北の丸地区整備計画の決定に伴い、取り壊しの対象となりましたが、明治洋風煉瓦造建築の一典型として、また、官公庁建築の遺構としても貴重なことから、その建築的価値を惜しむ声がよせられ、昭和47年（1972年）9月に、「重要文化財に指定のうえ、東京国立近代美術館分室として活用する」旨の決定がなされ、同年10月、「旧近衛師団司令部庁舎」として重要文化財に指定されました。

外観と玄関、広間の保存修理工事を施し、谷口吉郎による展示室の設計に基づく内部の改装によって、工芸部門の展示施設として再生した建物は、昭和52年（1977年）11月、東京国立近代美術館工芸館として開館しました。修復にあたって、屋根は建築当初のスレート葺に復元され、正面ホールから2階に伸びる両袖階段に往時の重厚な装いを見ることができます。ゴシック風赤煉瓦の簡素な外観は、四季折々に周辺の樹木と調和して、独特のたたずまいを有しています。



工芸館



展示室 撮影：上野則宏

フィルムセンター

明治期の映画館跡地に建つ日本で唯一の国立映画保存研究機関

フィルムセンターは、昭和27年（1952年）の国立近代美術館設置時にフィルム・ライブラリーとして発足した我が国唯一の国立映画機関です。国立近代美術館が開設された中央区京橋の地は、明治の頃から映画館が設けられ、昭和初期には旧日活本社ビルが建てられるなど、日本映画にゆかりの深い場所です。昭和44年（1969年）に本館が現在の北の丸公園に移転、翌年の昭和45年（1970年）に映画部門として拡充され、フィルムセンターがこの地に開館し、平成7年（1995年）に全面的な建替を行い、現在に至っています。

また、映画フィルムを恒久的に保存するため、昭和61年（1986年）、神奈川県相模原市にフィルムセンター相模原分館を設置、さらに平成23年（2011年）には映画フィルム及び映画資料の保存を拡充することを目的とした相模原分館収蔵庫増築棟が竣工、建物の施設名称を既存棟は映画保存棟Ⅰ、増築棟は映画保存棟Ⅱと変更し、平成26年（2014年）は映画保存棟Ⅲ（重要文化財映画フィルム保存庫）が竣工しました。

京橋の本部ビルと相模原分館映画保存棟Ⅰの設計は芦原義信、映画保存棟Ⅱ・Ⅲは安井建築設計事務所によるものです。



フィルムセンター



2F大ホール



フィルムセンター相模原分館

本館・工芸館の主な活動

展覧会の開催

本館、工芸館では、20世紀以降の我が国の美術と工芸の多様な展開を歴史的に跡づけた所蔵作品展と、様々なテーマや切り口で構成された特別展及び共催展を開催しています。

本館

所蔵作品展「MOMAT コレクション」(所蔵品ギャラリー、4F - 2F) では、重要文化財14点(2点は寄託作品)を含む、日本有数の近代美術のコレクションを公開しています。関連する海外の作品を交えながら、20世紀初頭から今日までの日本の美術の流れを概観できるよう展示しています。13,000点を超えるコレクションの中から毎会期約200点を選び、ほぼ時代ごとに章分けして構成しています。年数回の大きな展示替を行いながら、特定の作家やテーマに沿った特集展示や小企画を開催して、多様な角度から所蔵作品に光をあてています。平成24年(2012年)にはリニューアルを行い、内容、休憩コーナーを含むスペースともにさらに充実しました。

特別展及び共催展は、1階の企画展ギャラリーで特定のテーマに基づいて国内外の美術作品を展示するもので、年3〜4回開催しています。



所蔵品ギャラリー 3F「日本画」コーナー 撮影:木奥恵三



4F 休憩コーナー「眺めのよい部屋」 撮影:木奥恵三

本館の展覧会についてはこちら↓

<http://www.momat.go.jp/am/exhibition/>

本館で過去に行われた展覧会についてはこちら↓

<http://www.momat.go.jp/am/exhibition/archive/>

工芸館

所蔵作品展では、我が国の近・現代工芸の秀作を中心に、年に数回、3,700点を超す所蔵作品の中から120〜140点の作品を選び、近代工芸の歴史をたどる展示や名品の展示、特定のテーマによる展示などを開催しています。

特別展及び共催展は、特定のテーマに基づいて国内外の工芸作品を展示するもので、年間2〜3回開催しています。また、デザインに関する特別展を本館(2F ギャラリー 4)で定期的で開催しています。

このほか、工芸館では毎年「東京国立近代美術館工芸館巡回展」を開催し、年2〜3会場において工芸館の所蔵作品を全国で紹介する機会を設けています。



展示室



2F ホール 撮影:上野則宏

工芸館の展覧会についてはこちら↓

<http://www.momat.go.jp/cg/exhibition/>

工芸館で過去に行われた展覧会についてはこちら↓

<http://www.momat.go.jp/cg/exhibition/archive/>

工芸館巡回展についてはこちら↓

<http://www.momat.go.jp/cg/activities/>

図書・資料収集

本館のアートライブラリ、工芸館の図書閲覧室は、国内外の画集、写真集や各種美術参考図書、美術雑誌及び展覧会カタログなど約16万点を所蔵しており、一般の方々による閲覧が可能となっています(一部を除き閉架式)。

これら2つの図書室とフィルムセンター図書室は、国立新美術館、国立西洋美術館とともに都内および神奈川県内の6つの美術館、博物館の蔵書が検索できる美術図書館横断検索 ALC(<http://alc.opac.jp/>)に加盟しています。

本館アートライブラリについてはこちら → <http://www.momat.go.jp/am/visit/library/>

工芸館図書閲覧室についてはこちら → <http://www.momat.go.jp/cg/visit/library/>



本館アートライブラリ 撮影:上野則宏

教育普及活動

本館

企画展にあわせて講演会やシンポジウム、ギャラリートークなどを開催するほか、所蔵作品展でも、解説ボランティアによる毎日の所蔵品ガイドやハイライトツアー、学芸員によるキュレータートークなどを行っています。小学生から大学生までの学校団体に対しては、成長に合わせたきめ細やかな鑑賞プログラムを提供し、未就学児やファミリーに向けてもワークショップなどを行っています。

工芸館

展覧会ごとにギャラリートークやアーティストトークを開催し、企画にこめたメッセージや作り手の思いに触れながら、工芸の魅力を伝えています。

また、初めての方でも気軽に工芸を楽しめる工芸館オリジナルのプログラム「タッチ&トーク」を定期的に行っており、工芸作品特有の豊かな質感に直接触れてもらいながら対話することで、来館者の「見る力」を引きだすことを目指しています。「タッチ&トーク」は、幼稚園から大学まで、さまざまな授業の一環としてもご利用いただいています。

本館の教育普及活動についてはこちら → <http://www.momat.go.jp/am/learn/>

工芸館の教育普及活動についてはこちら → <http://www.momat.go.jp/cg/learn/>



本館 未就学児とその家族のための「おやこトーク」



工芸館 こどもタッチ&トーク

調査研究活動

東京国立近代美術館における美術館活動の推進・充実を図るため、継続的な調査研究を実施しています。また、その成果を、展覧会カタログ、東京国立近代美術館ニュース『現代の眼』、研究紀要、所蔵品目録、活動報告などを通じて発信しています。

調査研究についてはこちら → <http://www.momat.go.jp/am/research/>

その他

所蔵作品をより多くの方々に親しんでいただくために、他の美術館等で開催される展覧会へ作品貸出を行っています。また教育、学術または文化に係る出版などを行う他の団体等に向けて、所蔵作品のデジタル画像や写真原板の貸出などを行っています。

また、申し込み制により、当館が所蔵する写真作品を直接閲覧できる「プリントスタディ(写真作品閲覧制度)」を実施しています。

所蔵作品の画像貸出についてはこちら → <http://www.momat.go.jp/ge/reproduction/>

プリントスタディについてはこちら → <http://www.momat.go.jp/am/collection/printstudy/>

美術作品の収集・保管

本館

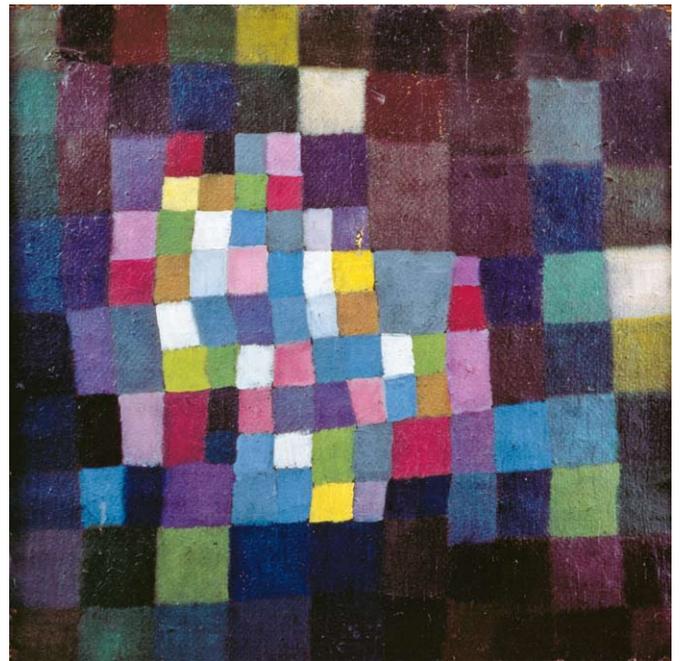
本館では、およそ明治40年（1907年、日本で最初の官設の公募展、文部省美術展覧会が開催された年）から今日までの、約100年間の日本と海外の美術作品を収集しています。現在、日本画、洋画、版画、水彩・素描、彫刻（立体造形）、写真、映像などの各分野にわたって、約13,000点を収蔵しています。

所蔵美術作品数（平成28年度末現在）

種別	点数
日本画	838
油彩その他	1,254
版画	3,051
水彩・素描	4,080
彫刻（立体造形）	458
書	21
写真	2,730
映像	56
美術資料	666
合計	13,154



上村松園《母子》1934年（日本画）（2011年6月27日重要文化財指定）



パウル・クレー《花ひらく木をめぐる抽象》1925年（油彩）

本館の所蔵作品についてはこちら → <http://www.momat.go.jp/am/collection/>

工芸館

工芸館では、明治以降今日までの日本と海外の工芸及びデザイン作品を収集しています。特に、多様な展開を見せた戦後の作品の収集に重点を置いています。陶磁、ガラス、漆工、木工、竹工、染織、人形、金工、工業デザイン、グラフィック・デザインなどの各分野にわたって約3,700点を収蔵しています。

所蔵美術作品数(平成28年度末現在)

種別	点数
陶磁	1,000
ガラス	146
漆工	357
木工	86
竹工	47
染織	491
人形	95
金工	432
その他の工芸	13
工芸資料	101
工業デザイン	188
グラフィック・デザイン	776
合計	3,732



鈴木長吉《十二の鷹》1893年(金工)



富本憲吉《色絵金銀彩羊歯文八角飾箱》1959年(陶磁)

工芸館の所蔵作品についてはこちら → <http://www.momat.go.jp/cg/collection/>

フィルムセンターの主な活動

上映会・展覧会の開催

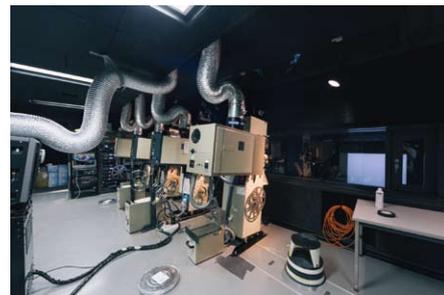
フィルムセンターでは、上映会と展覧会を行っています。

大ホール(2階)では、監督別、国別、ジャンル別など、様々なテーマにあわせて、上映会を行っています。番組には芸術的、映画史的に重要な作品はもちろんのこと、時事的、文化史的に貴重な映画や、発見され復元された映画フィルムなども含まれ、バラエティー豊かな映画文化の創造に寄与することを目指しています。

小ホール(地下1階)では、上映会を行うほか、講演会などの各種事業も行っています。

展示室(7階)では、映画のポスター、スチル写真、時代を画した映画機材や映画人の遺品などの展示を行っています。

また、優れた映画の鑑賞機会を提供し、映画文化や映画芸術への関心を高めるとともに、映画保存の重要性について理解を促進するため、「優秀映画鑑賞推進事業」として、日本各地の公立文化施設等と連携・協力して、所蔵映画フィルムの巡回上映を全国で実施しています。



大ホール映写室



7F 展示室

フィルムセンターの上映会・展覧会についてはこちら↓

<http://www.momat.go.jp/fc/exhibition/>

過去に行われた上映会・展覧会についてはこちら↓

<http://www.momat.go.jp/fc/exhibition/archive/>

優秀映画鑑賞推進事業についてはこちら↓

<http://www.momat.go.jp/fc/learn/yusyueiga/>

図書・資料収集

フィルムセンター図書室(4階)は、明治以降日本で刊行された映画関連図書の約7割を所蔵しており、一般の方々の閲覧が可能となっています(閉架式)。

フィルムセンター図書室についてはこちら↓

<http://www.momat.go.jp/fc/research/library/>



4F 図書室

教育普及活動

映画による国際交流事業の一環として、上映会・展覧会と連動した講演会や、映画保存に関するシンポジウム等を開催しています。また、保存や復元に係る課題の共有や人材の育成を目的に、セミナーやワークショップも行っています。

このほか、ホール・展示室でのトークイベントや、将来の映画観客となる小・中学生を対象とした「こども映画館」事業を実施しています。

フィルムセンターの教育普及活動についてはこちら→ <http://www.momat.go.jp/fc/learn/>

調査研究活動

我が国唯一の国立映画機関として、映画にかかわる調査研究を幅広く実施しています。また、その成果を、『NFC ニュースレター』、『NFC カレンダー』、上映作品及び展示作品に関する映画解説書、出品目録などを通じて発信しています。

フィルムセンターの調査研究についてはこちら → <http://www.momat.go.jp/fc/research/>

その他

(1) 映画フィルム及び関連資料の貸与

映画文化の振興などを目的とする公の性格を有する団体等に対し、著作権者の了解のもと、保存の観点を考慮しながら、所蔵映画フィルム及び関連資料を貸し出す事業を行っています。

(2) 映画フィルム及び関連資料の複製利用

映画作品の著作権者、テレビ番組制作者、博物館・資料館等が、作品の普及、番組での使用、展示・資料収集などのため、所蔵映画フィルム等から複製できる事業を行っています。

(3) 映画フィルム及び関連資料の観覧

大学等の教育機関又は研究機関等が、映画に関する教育・研究のため、所蔵映画フィルム及び関連資料を館内において観覧できる事業を行っています。

フィルムセンター相模原分館

相模原分館の映画フィルム専用保存庫は、地下二層式の映画保存棟Ⅰ・Ⅱと平屋建の映画保存棟Ⅲの3棟があり、日本劇映画とその他の映画の種別（文化・記録映画、アニメーション映画、ニュース映画、外国映画等）に分け、また上映用プリントと、原版類を別に保管し、保存棚はフィルムを一缶ずつ収納できるよう設計されています。

また、映画保存棟Ⅱには映画資料・機材等を保管する映画文献資料室や映画技術資料室等があります。

映画保存棟Ⅰ・Ⅱ・Ⅲともに温湿度維持のため、24時間自動運転管理の空調システムを完備し、庫内を室温2℃～10℃(±2℃)、湿度35%～40%(±5%)に設定。酢酸臭等の劣化フィルムには、化学吸着フィルターによる対応をしています。また、映画文献資料室や映画技術資料室は室温21℃(±2℃)、湿度50%(±5%)に設定しています。



映画保存棟Ⅰ



映画保存棟Ⅱ 映画フィルム用電動式可動棚

映画フィルム等の収集・保管

フィルムセンターでは、映画フィルムの網羅的な収集を基本とし、芸術性に優れた作品、映画史上で重要な作品、事業を構成する上で必要な作品等の収集を優先しながら、相模原分館に保存しています。

また、映画フィルムと合わせて、映画に関する図書・雑誌、シナリオ（撮影台本）、ポスター、スチル写真等の映画関連資料を広く収集・保管し、文献の公開も行っています。

所蔵映画フィルム本数（平成28年度末現在）

種別	日本映画	外国映画	合計
劇映画	12,291	5,225	17,516
文化・記録映画	29,672	3,113	32,785
アニメーション映画	2,423	352	2,775
ニュース映画	15,931	188	16,119
テレビ映画	9,847	467	10,314
合計	70,164	9,345	79,509

所蔵映画資料数（平成28年度末現在）

種別	数量
和書	約41,600点
洋書	約4,700点
シナリオ	約44,000点
ポスター	約58,000点
スチル写真	約705,000点



現在最古の日本映画《紅葉狩》1899年
35mm デュープネガ・フィルム（2009年7月10日重要文化財指定）



溝口健二《近松物語》1954年
ポスター（国際版）

フィルムセンターの収集・保存・復元活動についてはこちら → <http://www.momat.go.jp/fc/aboutnfc/preservation/>

略年表

昭和26年(1951年)		文部省予算に国立近代美術館設置のため1億円が計上された。また、同年に国立近代美術館設置に必要な諸事項を調査審議するため、文部省に国立近代美術館設置準備会が置かれた。
	12月20日	国立近代美術館設置準備会は本館開設について文部大臣に答申した。
昭和27年(1952年)	3月	日活本社ビルを8,300万円で購入し、1,700万円で建築家前川國男の設計により、改装工事を行うことになった。
	6月6日	文部省設置法が改正(昭和27年法律第168号)され国立近代美術館が設置された。
	8月1日	国立近代美術館長事務取扱として寺中作雄(文部省社会教育局長)が任命された。
	10月1日	初代館長に岡部長景(元文部大臣)が任命された。
	12月1日	開館。これを記念して第1回展「日本近代美術展：近代絵画の回顧と展望」(12月1日～28年1月25日)を開催した。
昭和28年(1953年)	4月1日	「友の会」が発足した。
昭和35年(1960年)	1月22日	岡部長景が館長を辞任し、後任には稲田清助(前文部事務次官)が任命された。
昭和38年(1963年)	3月1日	文部省設置法施行規則の改正(昭和38年文部省令第2号)により国立近代美術館京都分館が設置され、分館長に今泉篤男(前国立近代美術館次長)が任命された。
	4月27日	国立近代美術館京都分館が開館した。これを記念して第1回展「現代日本陶芸の展望」及び「現代絵画の動向」(4月27日～5月26日)を開催した。
昭和41年(1966年)	1月11日	国立近代美術館の移転の候補地を探していたが、閣議了解「皇居周辺北の丸地区の整備について」により、同地区に移転することが可能となった。
	2月16日	稲田清助が館長を辞任し、後任には小林行雄(元文部事務次官)が任命された。
昭和42年(1967年)	1月27日	石橋正二郎評議員から東京都千代田区代官町2番地に、鉄筋コンクリート建地上3階、地下2階、予定価額約12億円の建物を新築・寄贈したいとの申し出があった。
	5月31日	文部省設置法(昭和24年法律第146号)が改正(昭和42年法律第17号)され、6月1日から国立近代美術館は、東京国立近代美術館となり、国立近代美術館京都分館は、独立して京都国立近代美術館となった。
	11月8日	アメリカ議会図書館に所蔵されている日本映画フィルムの交換協定が締結された。
昭和43年(1968年)	6月15日	文部省設置法が改正(昭和43年法律第99号)され、東京国立近代美術館は文化庁の附属機関となった。
昭和44年(1969年)	4月1日	文部省設置法施行規則が改正(昭和44年文部省令第13号)され東京国立近代美術館にフィルムセンターが設置された。
	5月7日	石橋正二郎評議員の寄贈による東京国立近代美術館の竣工寄贈式が行われた。
	6月11日	常陸宮同妃両殿下をお迎えして、新館の開館式を行った。これを記念して「現代世界美術展：東と西の対話」(6月12日～8月17日)を開催した。
昭和45年(1970年)	3月	終戦時アメリカに接収された絵画153点が送還(無期限貸与)された。
	5月27日	東京国立近代美術館フィルムセンターの開館式を行った。これを記念して「アメリカ古典映画の回顧」(5月28日～8月1日)の企画上映を行った。
昭和46年(1971年)	4月	実験的に実験的に実施してきた無料観覧日を、今後も特別展を除き、毎月第1日曜日に継続実施することとした。
昭和47年(1972年)	7月1日	小林行雄が館長を辞任し、後任には岡田譲(前文化庁文化財保護部文化財鑑査官)が任命された。
	9月12日	千代田区北の丸公園所在の旧近衛師団司令部庁舎は、重要文化財として指定のうえ東京国立近代美術館分室として活用をはかるため存置すべき建物に含めるとの閣議了解がなされた。
	10月2日	旧近衛師団司令部庁舎は、重要文化財に指定された。
昭和48年(1973年)	1月8日	旧近衛師団司令部庁舎(大蔵省普通財産)は、東京国立近代美術館分室として所管換され、文化庁は、同建物の文化財保存修理工事に着手した。なお、同工事は昭和53年3月に完了した。
昭和51年(1976年)	1月16日	岡田譲が館長を辞任し、後任には安達健二(前文化庁長官)が任命された。

昭和52年(1977年)	4月18日	文部省設置法施行規則が改正(昭和52年文部省令第10号)され、事業課は美術課に名称変更し、新たに工芸課が設置された。
	11月14日	文部大臣、文化庁長官臨席のもとに工芸館開館式を挙行政した。これを記念して「現代日本工芸の秀作」(11月15日～53年3月19日)を開催した。
昭和54年(1979年)	4月4日	文部省設置法施行規則が改正(昭和54年文部省令第11号)され、美術課を企画・資料課及び美術課に分離改組した。
昭和56年(1981年)	3月6日	昭和54年3月17日以来本館前庭地下に建設中であった新収蔵庫(990㎡)が竣工した。なお、工事中、先土器時代以降近世に至る遺跡が発見され、調査委員会を設けて発掘調査を行った。
	4月	試験的に実施してきた夜間開館を、夏季の毎週金曜日に実施することとした。
	11月	フィルムセンターフィルム保存庫建設候補地として、神奈川県相模原市に所する、キャンプ淵野辺返還国有地の一部使用を、関係機関に要請していたところ、9月30日「国有財産返還財産処理小委員会」、11月24日「国有財産中央審議会」が開催され、この中で東京国立近代美術館のフィルム保存施設用地として15,000㎡の使用が折込まれ大蔵大臣に答申された。
昭和57年(1982年)	5月21日	当館開館30周年にあたり、所蔵作品による記念展を次のとおり開催した。 ・近代日本の美術1945年以後(5月21日～7月11日、本館) ・近代日本の美術1945年以前(9月18日～10月31日、本館) ・近代日本の工芸(5月21日～7月11日、工芸館)
昭和59年(1984年)	7月1日	文部省組織令が改正(昭和59年政令第227号)され、東京国立近代美術館は、文化庁の施設等機関となった。
	10月19日	フィルムセンター相模原分館(仮称)建設用地として大蔵省より土地の所管換を受けた。
昭和61年(1986年)	3月13日	フィルムセンター相模原分館が完成し、竣工式を行った。
	4月1日	安達健二が館長を辞任し、後任には犬丸直(元文化庁長官)が任命された。
	6月25日	フィルムセンター(京橋分館)整備計画調査委員会より最終報告が出された。
昭和62年(1987年)	4月	「友の会」を休会とし、今後の運営形態、存続等について検討することとなった。
	11月3日	教育・文化週間の一環として、同日の展示会を無料観覧日とし、以後継続して実施することとした。
昭和63年(1988年)	8月1日	犬丸直が館長を辞任し、後任には大崎仁(前文化庁長官)が任命された。
平成2年(1990年)	4月1日	フィルムセンター建替工事のため、京橋の建物は、閉鎖となる。
	7月5日	大崎仁が館長を辞任し、後任には植木浩(前文化庁長官)が任命された。
平成6年(1994年)	10月31日	平成3年1月10日に着手したフィルムセンター建替工事が完了し、12月7日に竣工式を行った。
平成7年(1995年)	3月31日	昭和62年度より実施していた美術館の大規模改修工事(外壁、空調設備、電気設備等)が終了した。
	5月11日	文化庁長官臨席のもとに、新フィルムセンターの開館式を挙行政した。 また、新フィルムセンター7階展示室においては映画関係資料の展示とともに、写真・デザイン作品の展示も行うこととなった。
平成8年(1996年)	7月31日	植木浩が館長を辞任し、後任には面崎清久(前国立教育会館長)が任命された。
平成10年(1998年)	6月17日	平成10年度補正予算(第1号)で、東京国立近代美術館(本館)増改築工事に関する経費が計上された。
	12月11日	平成10年度補正予算(第3号)で、東京国立近代美術館(本館)増改築に伴う本館改修工事等の経費の一部が計上された。
平成11年(1999年)	7月6日	面崎清久が館長を辞任し、後任には辻村哲夫(前文部省初等中等教育局長)が任命された。
	7月12日	東京国立近代美術館(本館)増改築工事のため、休館となる。
	11月2日	天皇皇后両陛下が日本映画名作鑑賞会「新藤兼人の世界」をご鑑賞のため、行幸啓された。
	12月9日	平成11年度補正予算で、東京国立近代美術館(本館)増改築に伴う本館改修工事等の経費の一部が計上された。
平成13年(2001年)	4月1日	京都国立近代美術館、国立西洋美術館及び国立国際美術館とともに独立行政法人国立美術館の一機関となる。当館本館内に国立美術館本部が置かれる。

	9月26日	平成11年8月5日に着手した本館改修工事が完了し、9月26日に文部科学大臣、大臣政務官及び文化庁長官臨席のもと竣工式を挙行了した。
平成14年(2002年)	1月16日	開館記念展「未完の世紀:20世紀美術がのこすもの」を開催した。 同展覧会から夜間開館を通年で実施することとなった(本館)。 また、本館のリニューアルオープンに伴い、これまでフィルムセンター7階展示室で行われていた写真・デザイン作品の展示を本館で行うこととなり、同展示室は映画関係資料専用の展示室として活用することとなった。
	2月16日	常設展の小中学生の観覧料金を無料とした(本館は3月26日から実施)。
	5月	文化庁長官のもとに、「映画振興に関する懇談会」が設置された。
	8月29日	天皇皇后両陛下が「小倉遊亀展」をご観覧のため、行幸啓された。
	10月12日	当館開館50周年にあたり、本館で「コレクションのあゆみ」を開催した。
平成15年(2003年)	4月1日	高校生料金の低廉化を実施した。
	4月24日	「映画振興に関する懇談会」において、「これからの日本映画の振興について～日本映画の再生のために～(提言)」が取りまとめられた。
	5月23日	本館で、解説ボランティア「MOMATガイドスタッフ」による所蔵品ガイドを開始した。
平成16年(2004年)	1月6日	文化庁次長のもとに、「フィルムセンターの在り方に関する検討会」が設置された。
	6月9日	工芸館で、ボランティアガイドスタッフによるガイド「タッチ&トーク」を開始した。
	9月	「フィルムセンターの在り方に関する検討会」において、「フィルムセンターの独立について(審議のまとめ)」が取りまとめられた。
	9月10日	天皇皇后両陛下が「琳派RIMPA」をご観覧のため、行幸啓された。
	10月1日	東京国立近代美術館賛助会員(MOMATメンバーズ)制度が発足し、東京国立近代美術館の事業に賛同する団体に向けて入会受け付けを開始した。
平成17年(2005年)	7月5日	天皇皇后両陛下が「小林古径展」をご観覧のため、行幸啓された。
平成18年(2006年)	5月3日	皇后陛下が「藤田嗣治展」をご観覧のため、行啓された。
	12月6日	皇后陛下が「ジュエリーの今:変貌のオブジェ」展をご観覧のため、行啓された。
	12月12日	所蔵作品展の共通観覧券「MOMATパスポート」の販売を開始した。
平成19年(2007年)	2月16日	天皇皇后両陛下が「人間国宝 松田権六の世界」をご観覧のため、行幸啓された。
	4月7日	フィルムセンターにおいて、「第63回国際フィルムアーカイブ連盟(FIAF)東京会議2007」が開催された。
	10月6日	工芸館開館30周年にあたり、本館講堂で開館30周年記念式典を行い、工芸館で「工芸館開館30周年記念展」を開催した。
	10月19日	皇后陛下が「平山郁夫:祈りの旅路」展をご観覧のため、行啓された。
平成20年(2008年)	2月26日	所蔵作品展及び特別展の高校生及び18歳未満の観覧料金を無料とした(本館は3月29日から、フィルムセンターは4月4日から実施)。
	4月1日	辻村哲夫が館長を辞任し、後任には青柳正規(独立行政法人国立美術館理事長)が任命された。
	7月12日	青柳正規の後任として、加茂川幸夫(前文部科学省生涯学習政策局長)が館長に任命された。
平成21年(2009年)	5月30日	フィルムセンター主幹岡島尚志が国際フィルムアーカイブ連盟(FIAF)の会長に就任した。
	7月10日	フィルムセンター所蔵の『紅葉狩』(1899年、柴田常吉撮影)が、映画フィルムとして初めて重要文化財に指定された。
	9月4日	皇后陛下が「ゴーギャン展」をご観覧のため、行啓された。
平成22年(2010年)	1月3日	フィルムセンターが共同して実施した『羅生門』(1950年、黒澤明監督)のデジタル復元が、「全米映画批評家協会賞」を受賞した。
	4月11日	皇后陛下が「生誕120年 小野竹喬展」をご観覧のため、行啓された。
	6月29日	フィルムセンター所蔵の映画フィルム『史劇 楠公訣別』(1921年)が、重要文化財に指定された。
	9月28日	皇后陛下が「上村松園展」をご観覧のため、行啓された。
平成23年(2011年)	3月30日	フィルムセンター相模原分館映画保存棟IIが竣工した。

	6月 27日	フィルムセンター所蔵の映画フィルム『小林富次郎葬儀』(1910年)が、重要文化財に指定された。
平成 24年(2012年)	10月 16日	当館開館60周年にあたり、本館で「美術にぶるっ!ベストセレクション 日本美術の100年」を開催した。
平成 25年(2013年)	1月 10日	天皇皇后両陛下が「美術にぶるっ!ベストセレクション 日本美術の100年」をご観覧のため、行幸啓された。
平成 26年(2014年)	3月 28日 10月 8日 12月 2日	フィルムセンター相模原分館映画保存棟Ⅲ(重要文化財映画フィルム保存庫)が施工した。 天皇皇后両陛下が「菱田春草展」をご観覧のため、行幸啓された。 「友の会」の運営形態、特典等の見直しを行い、会員の募集を再開した。
平成 27年(2015年)	1月 9月 12日	東京国立近代美術館賛助会員(MOMATメンバーズ)制度の見直しを行い、新たに個人賛助会員の受付を開始した。 天皇皇后両陛下が「No Museum, No Life? これからの美術館事典 国立美術館コレクションによる展覧会」をご観覧のため、行幸啓された。
平成 28年(2016年)	1月 1日 4月 30日 7月 12日	「MOMAT支援サークル」が発足した。 皇后陛下が「安田靉彦展」をご観覧のため、行啓された。 加茂川幸夫が館長を辞任し、後任には馬淵明子(独立行政法人国立美術館理事長)が任命された。
平成 29年(2017年)	4月 1日	馬淵明子の後任として、神代浩(前文部科学省科学技術・学術政策局科学技術・学術総括官兼政策課長)が館長に任命された。

その他

会員制度のご案内

当館では、東京国立近代美術館（MOMAT）をもっとお得に楽しみたい皆さまに、また、MOMAT をご支援くださる皆さまに、以下のメンバーシップ・プログラムをご用意しています。

《個人向け》

- 賛助会(会費:10,000～300,000円 有効期間:発行日より1年間)
- MOMAT サポートーズ(会費:5,000円 有効期間:発行日より1年間)
- MOMAT パスポート(1,200円 有効期間:最初のご利用日から1年間)

《企業向け》

- MOMAT 支援サークル

会員制度についてはこちら→ <http://www.momat.go.jp/ge/support/>

施設概要

本館

土地	敷地面積	6,107㎡(環境省及び独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構から使用承認)
	構造規模	鉄骨鉄筋コンクリート造 地上4階 地下1階
建物	建物面積	4,511.62㎡
	延床面積	17,192.6㎡(会場4,763.4㎡ 収蔵スペース1,337.8㎡ その他11,091.4㎡)

工芸館

土地	敷地面積	4,512.72㎡(環境省から使用承認)
	構造規模	煉瓦造 地上2階
建物	建物面積	929㎡
	延床面積	1,858㎡(会場657.7㎡ 収蔵スペース205.6㎡ その他994.7㎡)

フィルムセンター

土地	敷地面積	788㎡
	構造規模	鉄骨鉄筋コンクリート造 地上8階 地下3階
建物	建物面積	727㎡
	延床面積	6,903㎡(大ホール306㎡(座席310) 小ホール190㎡(座席151) 展示室343㎡ その他6,064㎡)

フィルムセンター相模原分館

土地	敷地面積	14,997㎡
	構造規模	映画保存棟Ⅰ・Ⅱ 鉄骨鉄筋コンクリート造 地上2階 地下2階(2棟) 映画保存棟Ⅲ 鉄骨鉄筋コンクリート造 地上1階
建物	建物面積	2,731㎡ 映画保存棟Ⅰ 1,504㎡ 映画保存棟Ⅱ 1,090㎡ 映画保存棟Ⅲ 137㎡
	延床面積	9,576㎡ 映画保存棟Ⅰ 4,510㎡(収蔵スペース2,885㎡ 映写ホール他526㎡(席数200) その他1,099㎡) 映画保存棟Ⅱ 4,927㎡(収蔵スペース2,476㎡ 検査室100㎡ その他2,352㎡) 映画保存棟Ⅲ 139㎡(収蔵スペース45㎡ その他94㎡)

利用案内

本館

◎観覧料

区分		一般	大学生	高校生以下及び18歳未満の方／65歳以上の方
所蔵作品展	個人	500円	250円	無料
	団体	400円	200円	無料
特別展・共催展	展覧会ごとに異なります。詳しくはこちらにてご確認ください。→ http://www.momat.go.jp/am/exhibition/			

※団体とは20人以上同時に観覧するもので、引率者は20人につき1人の割合で無料になります。

本館の観覧料の減免、無料観覧日等についてはこちら→<http://www.momat.go.jp/am/visit/faq/#section1-2>

◎開館時間

午前10時～午後5時 ※本館のみ金・土曜日は午後8時まで [入館は閉館30分前まで]

開館時間等についてはこちら→<http://www.momat.go.jp/am/today/>

◎休館日

月曜日 [月曜日が祝日又は振替休日に当たる場合は開館し、翌日休館]、展示替期間、年末年始

本館の年間スケジュールについてはこちら→<http://www.momat.go.jp/am/2017/>

工芸館

◎観覧料

区分		一般	大学生	高校生以下及び18歳未満の方／65歳以上の方
所蔵作品展	個人	250円	130円	無料
	団体	200円	60円	無料
特別展・共催展	展覧会ごとに異なります。詳しくはこちらにてご確認ください。→ http://www.momat.go.jp/cg/exhibition/			

※団体とは20人以上同時に観覧するもので、引率者は20人につき1人の割合で無料になります。

工芸館の観覧料の減免、無料観覧日等についてはこちら→<http://www.momat.go.jp/cg/visit/faq/#section1-2>

◎開館時間

午前10時～午後5時 [入館は閉館30分前まで]

開館時間等についてはこちら→<http://www.momat.go.jp/am/today/>

◎休館日

月曜日 [月曜日が祝日又は振替休日に当たる場合は開館し、翌日休館]、展示替期間、年末年始

工芸館の年間スケジュールについてはこちら→<http://www.momat.go.jp/cg/2017/>

フィルムセンター

◎観覧料

区分		一般	高校生・大学生／シニア(65歳以上の方)	小・中学生
上映会	所蔵作品上映 個人	520円	310円	100円
	特別上映 個人	1,050円	840円	600円
	共催上映	上映会ごとに異なります。詳しくはこちらにてご確認ください。→ http://www.momat.go.jp/fc/exhibition/		
区分		一般	大学生	高校生以下、18歳未満及び65歳以上の方
展覧会	個人	250円	130円	無料
	団体	200円	60円	無料

※団体とは20人以上同時に観覧するもので、引率者は20人につき1人の割合で無料になります。

上映会の観覧料の減免等についてはこちら→<http://www.momat.go.jp/fc/visit/faq/#section1-3>

展覧会の観覧料の減免、無料観覧日等についてはこちら→<http://www.momat.go.jp/fc/visit/faq/#section1-4>

◎開館時間

区分	観覧時間(開映時間)	観覧券の発売
大ホール	企画ごとに1日2～3回の上映が行われます。	開映30分前から開映時間まで(満席時除く) ※各回1名につき1枚のみ
小ホール		
展示室	午前11時～午後6時30分	開室時間から閉室30分前まで

上映会の開映時間について詳しくはこちらにてご確認ください。→<http://www.momat.go.jp/fc/exhibition/>

◎休館日

月曜日、上映準備・展示替期間、年末年始

フィルムセンターの年間スケジュールについてはこちら→<http://www.momat.go.jp/fc/2017/>

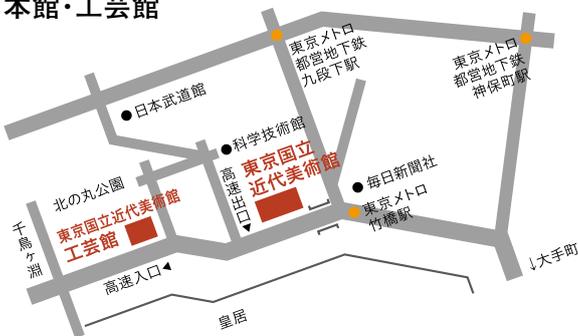
所在地・問い合わせ先

	住所	問い合わせ先
本館	〒102-8322 東京都千代田区北の丸公園3-1	TEL 03-3214-2561(代表) FAX 03-3214-2577(運営管理部) 03-3214-2576(企画課・美術課)
工芸館	〒102-0091 東京都千代田区北の丸公園1-1	TEL 03-3211-7781(工芸課代表) FAX 03-3211-7783
フィルムセンター	〒104-0031 東京都中央区京橋3-7-6	TEL 03-3561-0823(代表) FAX 03-3561-0830
フィルムセンター 相模原分館	〒252-0221 神奈川県相模原市中央区高根3-1-4	TEL 042-758-0128(代表) FAX 042-757-4449

位置図・交通機関



本館・工芸館



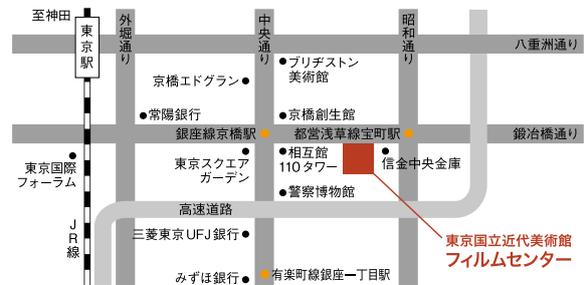
東京メトロ東西線「竹橋駅」下車(1b出口)
本館 … 徒歩3分 工芸館 … 徒歩8分

フィルムセンター相模原分館



JR 横浜線「淵野辺駅」下車、徒歩15分

フィルムセンター



東京メトロ銀座線京橋駅下車、出口1から昭和通り方向へ徒歩1分
都営地下鉄浅草線宝町駅下車、出口A4から中央通り方向へ徒歩1分
東京メトロ有楽町線銀座一丁目駅下車、出口7より徒歩5分
JR 東京駅下車、八重洲南口より徒歩10分

- 公式ホームページ → <http://www.momat.go.jp>
- 公式 twitter → <http://twitter.com/MOMAT60th>
- 公式 facebook → <http://facebook.com/momat.pr>



The National Museum of Modern Art, Tokyo

MOMAT 支援サークル (MOMAT Corporate Partnership)

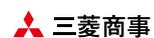
東京国立近代美術館本館および工芸館は、企業による美術館支援制度を設け、当館の様々な活動にご協力をいただいております。パートナー企業の皆様には、社員証提示による所蔵作品展無料見学などを通し、美術館をお楽しみいただいております。

パートナー企業 (平成 29 年 7 月現在)

〈プラチナパートナー〉



〈ゴールドパートナー〉



〈シルバーパートナー〉



A STAR ALLIANCE MEMBER 